

学びやすい英語辞書を目指して

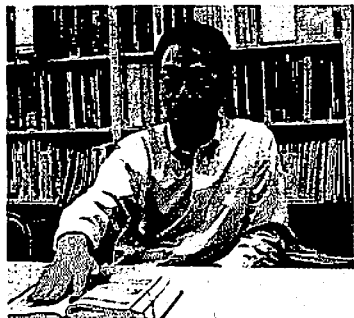
95期高校辞書市場において、大きく躍進した『エースクラウン英和辞典』。使用している方々からも読者カードなどを通じて評価の声が寄せられています。今回は、編者の投野由紀夫先生にお話をうかがいました。（取材：社内報事務局）

“エースクラウン”のコンセプトとは

——『エースクラウン英和辞典』は、どのような考え方でつくられているのでしょうか。

紙の辞書で英語の学習をサポートできるような引きやすい辞書、まず引いてもらえるような工夫です。また、語彙学習の仕方と辞書を結びつけてつくったらどうなるか、例えば、辞書の引き方は学習者にお任せではなくて、使い方もいっしょに考えるような、そんな発想です。普段辞書をあまり使わない学習者にも使ってもらえるように親し

みやすくしたり、情報を学習用に絞り込んだりと、語彙学習の方法や辞書の活用の仕方などの提案を、辞書の内容といっしょにパッケージで提供したいと思いました。



——そのコンセプトを辞書の中でどのように実現されたのでしょうか。

まず、大きく語彙の重要度の区切りをしました。コーパスデータから選んで、この重要語ではこれだけ勉強した方がいいという情報を集約するよう

なページをつくり、“フォーカスページ”としました。イメージとしては、これが核をつくるような語彙、骨組みになるような単語です。それについて、できるだけ1～2ページで情報が一覧できて、こんな用法をこの程度までやればよいというのを、先生も生徒もわかるようにしました。コーパスデータで重要度の重みづけをして、それと語彙の学習方法をからめると、効果的に単語学習ができるというアプローチです。

また、細かいところでは、項目の例文がシンプルで、普通の高校の辞書に比べると少し易しめです。単語の意味だけわかればいいものと、使いこなさなければならないものをできるだけはっきり分けようという意図があるためです。

さらに、巻頭カラーページが多く、いろいろな素材を載せてイラストも工夫し、親しみやすくなりました。学習のサポートのためのアイデアも入っています。文法についても、難しく見えないように、中学の復習を中心にQ&A方式で入れるなどしています。

新しい試み “フォーカスページ”

——フォーカスページの内容や意図はどのようなもので、どう授業に生かせるのでしょうか。

フォーカスページでは、主要な動詞と前置詞をメインに取り上げています。基本語の場合、核になるイメージはだいたい一つで、そこからいろいろな意味に派生します。ほとんどのものに

イラストのイメージをつけています。例えば動詞の「have」（次ページ参照）。最初は「持っている」という意味しか使いませんが、「食べる」「ミーティングを持つ」のようにだんだん抽象的になっていきます。フォーカスページに何度も戻ることによって、「have=持つ」という単純なイメージか

コーパス言語学の第一人者 投野由紀夫氏



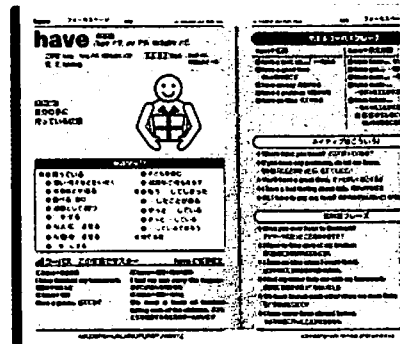
とうの・ゆきお

1961年東京生まれ。東京外国語大学大学院准教授。専門はコーパス言語学、英語語彙習得論。2003～2005、2007年度、NHK「100語でスタート!英会話」、2009年4月より「コーパス100!で英会話」講師。著書多数。

らもっと深い指導ができるようにと考えています。haveは教科書にもたくさん出てきますが、例えば、「have + 名詞」だけでもいろいろな語との結びつきや言い方があります。そうすると、非常に多くのことを学ばなければいけません。そこで、コーパスで調べると、よく出るhaveの構文とその出現頻度順がわかってくるので、それをデータとして載せているわけです（「コーパスこの順番でマスター」「使えるコーパスフレーズ」）。コーパスのフレーズ以外にも、ネイティブスピーカーの会話の中で教科書ではあまり出てこない言い方を取り上げたり（「ネイティブはこういう!」）、逆に、教科書で使われているフレーズを、高校英語の教科書データからフィーチャーして、このレベルまで読めるとよいというのも提案しています（「教科書フレーズ」）。

そうすると、どのくらいの深さまで勉強したらいいかという見当がつけられます。そこからは、例えば、例文を暗唱したり、リスニングで書き取ったりして、まずパターンを仕込む。それをもとに会話の表現で使ったり、作文の中で書いたりできると思います。

先生が何度もこのページへ誘導すれば、基礎語彙の学習に厚みが出ると思います。ですので、まずフォーカスページの内容を中高6年間でマスターする、教科書に出てくる項目と照らし合わせていろいろなポイントで教える、そんな発想を先生方に紹介しています。核になる力をしっかりと身につけると他が楽になりますよ、という提案です。



英語辞書のこれから

—今後の英語の辞書についてのお考えは。

コーパスを使った辞書、学習一般向けの英語辞書は完成度がかなり高くなってきているといえます。ですので、一つの方向性としては、目的をもう少し絞ったもの、分野別の何かをサポートするとか、もう少し上級レベルでアカデミックな分野のものなどは可能性があると思います。もう一つは、初学者向けのものですね。基礎語彙の力とは何か、というモデルをつくって、それをもとに情報を絞る、易しくするということが必要だと思います。中学向けのものなどは、学習のステップも網羅した形にして、スリムな方がいいですね。

あとは、紙という媒体のメリットを生かすアプ

ローチですね。英語の基礎力を身につけるためには、紙の辞書の方がいいと思います。じっくり探せるし、マーカーで塗ったり印をつけたり、そういう作業自体が学習だと思うからです。

電子辞書だと、学習の記録を残せないですね。初期の辞書指導は、紙の辞書で苦労して引かせて、その結果何でも引ける力をつけた方がいいと思います。自分で調べたり勉強したりできるように、勉強の仕方を教えるような側面も大事だと思います。

